

「e-journal の船出」

美宅成樹

日本生物物理学会は、2005年1月を期して、英文ジャーナル“Biophysics”を発刊した。

この1年間、生物物理学会には色々なことがあった。1年前だが、初めて他の学会(日本神経化学会)との間で合同年会を行ない、年会に対する見方が変わってきたと思う。近いところでは、会員管理を依頼していた学会事務センターが破産し、多くの学協会が影響を受けた。生物物理学会もかなりの影響を受けた。会員管理が一時的に止まり、現在は会長室(石渡会長)の方で業務をしのいでいる。そして、今回スタートする英文ジャーナル“Biophysics”は、かなり昔からの懸案であったが、2年近くの準備期間を経て、静かに船出したのである。それに伴い、和文の生物物理学会誌も表紙を含めて一新し、英文・和文とも中西印刷(京都)で編集・出版することとなった。

“Biophysics”は、静かにスタートしたのだが、それは私たちにとって非常に大きなものになるだろう。それがこのジャーナルを準備してきた私たちの予感である。ジャーナルの投稿規程等の関係文書が日本生物物理学会のホームページ上に公開されている。

URL: <http://www.biophys.jp/ContentsForJournal.html>

是非見ていただきたいのだが、その内容を簡単に述べておきたい。

“Biophysics”は、生物物理学のすべての分野を視野に入れたジャーナルであると同時に、運営主体は日本生物物理学会であるということ、まず指摘しておきたいと思う。編集委員会は、葛西道生氏と柳田敏雄氏を編集長とし、編集委員には中国、台湾、香港、韓国、インド、オーストラリアからの研究者を含め、30名で構成されている。さらに、アドバイザリー・ボードは日本生物物理学会の分野別専門委員が勤める。

世界における生物物理学の専門誌としては、アメリカ生物物理学会刊行の Biophysical Journal や、ヨーロッパ生物物理連合主体で刊行されている European Biophysics Journal があるが、“Biophysics”はアジア・オセアニア地区から世界に発信する3つ目の生物物理学の専門誌となる。現在、生物物理分野に優れた専門の国際誌があふれているという状態ではないので、新ジャーナルが日本を中心としたアジアさらには世界の優秀な研究論文をある程度吸収することができれば、よい専門誌に成長していこうと考えられる。

e-journal にした意味は、まず静かに始め、次第に大きく発展させていくという方針を採ろうと思ったからである。紙版で出版しようとする、どうしてもある一定以上のレベルを量的にも確保することが求められ、関係者の負担が非常に大きなものとなる。その制約は1年1巻として受理された順番に通しページを振る On-line ジャーナルならば、力まずにスタートすることができるだろうと考えた。そういう意味で、量は少なくとも、良い論文を掲載していきたいと考えている。

論文のスタイルとしては、Regular articles, Review articles, Notes がある。オリジナル論文としての Regular articles、主に招待論文となる生物物理分野の総説 Review articles、それと新技術や新しいアイデアなど論文になりにくい内容も取り上げる Notes に分類したのである。特に、Notes は海外のジャーナルには投稿しにくいジャンルなので、活用していただきたい。

論文の投稿と査読プロセスは、日本語も可能にしている。また掲載料は、論文あたりの料金とページあたりの料金の和となっているが、前者について日本生物物理学会員には半額割引とした。もちろん e-journal のメリットとして、投稿から出版までの時間をかなり短縮できるはずである。新ジャーナル “Biophysics” は、日本生物物理学会の会員にとって、有形無形のメリットがある。このことを認識し、大いに活用していただきたいというのが、この記事の最大のメッセージである。